



～母の日かつこいいエピソード受賞作品 10 作品～

なぜ私がお母さんにプレゼントを贈りたいかという、私のお母さんが世界で一番カッコいいからです。

私のお母さんは大の動物好きで、家では猫を飼っています。ある日お母さんの運転でドライブに出掛けた際に、野良猫が道路に飛び出して来ました。咄嗟に急ブレーキをかけ、猫は無事だったのですが、後続車に追突されてしまいかなりの損害を受けることになりました。にも関わらず、お母さんはにっこり笑って「まあ猫が無事ならいいか！」と微笑んでいました。

お母さんが動物好きなのは知っていましたが、ここまで芯の通ったお母さんは中々居ないと思います。自分の損得よりも、自分が大切に思う猫を一番に気遣う姿勢に「カッコいい」と思われました。

私の母には孫がいます。

毎日幼稚園のお迎えに行き私が仕事が終わるまで面倒見てもらってます。

そんな母のお父さん（私のおじいちゃん）は認知症です。

離れて暮らしてたまに会いに行くのですが一人暮らしでたまにお店にクリームつけたり、病院に行って薬を飲むのも忘れてしまったり、その日にあった事自体もすぐに忘れてしまいます。

毎回説明したりもしてますがまた忘れるので何度も同じこと聞かれて同じ答えをすることすら大変だと思ってます。

ただ母は怒らないようにと話をそらしてみたり、自分に言い聞かせているようです。

私は日々子育てと仕事でストレスもたまり、子供が何が出来ないことがあったり、やってほしくないことをやってしまったりして叱るときにあたってしまったりもしてることがあります。

母はそんな子どもたちがその年齢なら普通のことだよと諭してくれます。

そんな寛大な母はいつもかつこいいと思います！

そんな母は花が好きなので毎年カーネーションを送ってます。

私がオーストラリアに留学していた 20 年ほど前のこと。当時はまだ日本食は高価で珍しく、学生の私にはなかなか買えないと、母にメールしたところ、それまで海外旅行などといったことがなかった母が、ある日、両手のカバンに冷凍した納豆や、梅干し、味噌汁などをパンパンに詰めて持って来てくれた際の、税関でのやりとりが「ドーター (daughter : 娘)」「イト (eat : 食べる)」「スーベニア〜 (souvenir : お土産)) と、身振り手振りを交えて、ドヤ顔で通り抜けたそう。

私が物怖じしない性格なのはお母さんに似たからだね。今はコロナでなかなか旅行も行けないけど、いつか一緒に海外旅行しようね。いつもありがとう。お母さん。

昔、私が 5 歳で、母のお腹の中には弟がいた頃のエピソードです。当時、私が魚釣りに行きたいと言って家族で釣り堀に行った時に、池の周りの石を飛び移って遊んでいたのですが足を滑らせて池に落ちてしまったんです。母は弟を身籠もっていましたが、その時周りにはお客さんは私たちしかおらず、小さかった私には何かに捕まるといった冷静な判断も出来ませんでした。その時母は、迷わず池に飛び込んで私を助けてくれました。今思えば、妊婦なのにそんな危険なことを、、なんて恐ろしくもなりますが、私のために池に飛び込んでくれた母をカッコいいと思いましたし、ほんとうに大切に思っていたのだと感じました。

私も今は母となり、小さい子供がおりますが、

母のように、どんなことがあっても命懸けで守りたいと思っています。

私のことを、命をかけて、産んでくれて、育ててくれて、いつだって助けてくれた母に、感謝を込めて贈り物をしたいです。

私の息子(母からしたら孫)が虐められていた時は私にも息子にも寄り添ってくれ、息子が今年の春に骨折して入院してしまい退院後に私が過労とストレスで倒れてしまった時も寄り添ってくれ、骨折部分に入れた金属を抜く時は私の代わりに息子の付き添いをして励ましてくれました。

私は母がいないと子育て出来ないような弱い人間ですが、母の両親は母が高校生の時に亡くなってしまっているので、私と弟と孫を 31 年間も母の強さと優しさと愛情で子育てしてくれていて感謝しています。

また先日は、スーパーの駐車場の歩道を飛び出して車に轢かれそうになった 2、3 歳くらいの女の子を瞬時に抱き抱えて助けた母がとてもカッコよかったです。(いつもの母は動きがゆっくりなのにその時だけはとても早くてビックリしました)

5 月は母の誕生月でもあり、母の日でもあるので、いつも強く優しい母にプレゼントを贈りたいです。そんな母には娘が描いた似顔絵をプレゼントしようかと思う。

子供の頃、母と、福島県から東京都の親戚のおじさんの家へ車で遊びに行くことに。親戚のおじさんとお別れの時に小学生の私に 1 万円もお小遣いとしてくれました。生まれて初めてのそんな大金を貰った私はお母さんが「なくしちゃうから預かる」と言っても聞かず、帰りの高速道路の車の中で四つ折りにした 1 万円札を握りしめながら寝てしまいました。案の定、寝ぼけながら途中のパーキングエリアで車から降りる時に落としたのを目が覚めた時に気が付きました。車の中を探しても見つからない。高速道路だから戻れない。1 万円という大金を無くしてしまい、泣いていたら「やっぱり落としてたから拾っておいたよ」と母が 2 つ折りの綺麗な 1 万円札を渡してくれました。私は四つ折りにして握りしめていたからクシャクシャのはずなのに。母のかつこいい嘘に感謝して、その 1 万円札で母の日のプレゼントを買いました。その年から毎年母の日にはプレゼントを贈ります。

私には花が大好きな母親と妻がいます。

私は単身赴任のため、毎年ベisia宅配専用の花を別の場所に住んでいる母親と、私の自宅に住んでいる妻の両方に毎年届けてます。商品が届くと必ず母親から連絡があります。

ある年、珍しく母親から連絡がなく、不思議に思いながらも母の日翌日に休みがとれたため、夜自宅に帰りました。

すると妻に送った花ともう二つ、花がありました。一瞬、間違えて母親分と妻の分両方を自宅に送ってしまったかと思いましたが、花がもう一つ余計にあることを不思議に思いました。

妻に事情をきいてみると、

私が母親に送った分は無事に母親に届いていたらしく、母親が私の自宅に花を二つ送ってきたそうです。

ひとつは妻の分。いつも単身赴任で旦那がいないのに頑張ってくれてありがとうという感謝の気持ちをこめて花をくれたそうです。

もうひとつは私の分でした。息子のあんたも頑張れ！とのこと。

本来私が送る日なのに。花が大好きな母親からのサプライズでした。とても嬉しかったです。

私が小学生の頃、運動会の父母参加の綱引きがあり、その年の運動会は拮抗した勝負で最後の綱引きで紅白の勝負が決まるくらいの熱戦でした。

力自慢の母は先頭を託され、意気込んでいました。

いざ競技が始まると、こちらは白組だったのですが、だんだんと追い込まれ劣勢になっていきます。しかし負けず嫌いな母は最後まで力を振り絞り綱を懸命に引いていました。

よいしょーと掛け声を合わせたその瞬間、ぷっぷぷーと音がして、その直後劣勢だったはずの白組の方に綱が一瞬の内に引き込まれて白組の勝利になりました。

後々母に聞いたら、カんだ際におならが出てしまい、赤組の先頭の方の父母さん方が大笑いして力が抜けてその瞬間にこちら側に綱を引き入れたそうです。劣勢だった分、正に尻に火がついてたからね、と目を輝かせてまるで武勇伝のようでした。引火しないでよかったです。

私は今重症妊娠悪阻で1ヶ月以上入院しています。

ご飯が食べられず布団から出ることもできず筋肉は脂肪に変わり、その脂肪ですら落ちてきての入院でした。

この時は本当に辛く、自分のことしか考えられませんでした。

ですが、私には家族がいて、義父母、主人、長男、長女と今お腹の中にいるのは3人目です。

コロナで面会もできず子どもたちのことが心配でしたが、お義母さんが「家のことは全部私に任せてゆっくり治してください。」と言う言葉と共に、その日の子どもたちの様子、食べた物、したことなど毎日詳しく報告してくれるので安心して治療に集中することができます。

同居当初は義母に何かあったら私が頑張らなきゃ！とカんだものですが、若々しく明るい義母に逆に元気をもらいお世話になりっぱなしです。

誰よりも頼もしくて格好いいお義母さん、いつもありがとうございます。

退院したら必ず恩返しするから待っててくださいね。

母なしの人生はありえない。

私の母は当時、不妊治療をしていました。15年もの間、群馬から始発で東京まで通っていたそうです。そして、ようやく授かったのが今の私です。何事も真剣に頑張る母だったので、ちょっとしたことにも目が覚めてしまい、慣れない育児で寝られないことが多く、顔面神経麻痺になってしまいました。今でも多少後遺症が残っていますが、それでもそれを感じさせないくらい元気です。

母のカッコいいエピソードを紹介します。私は学生の頃からずっと先生に憧れていました。先生になるには実技試験もあります。水泳や跳び箱、ピアノなどがありましたが、何より私が苦手だったのは逆上がりでした。一人で苦戦して公園での練習を見ていた母は、私ができるようになれば娘もきっと頑張れると感じ、一人で早朝にコツコツ神社で練習をして、私より先にできるようになってしまいました。そして、私の目の前でくると回って見せたのです。もう60近い母が華麗に逆上がりをしてしまう姿を見て私も負けじと頑張ることができました。今の私があるのは母のお陰です。まだまだエピソードをあげたらキリがなく、飼い犬を亡くして悲しんだときには、木登りをして、大きなカブトムシをとって私にプレゼントしてくれたり、今や、男の子四人、女の子一人の母となった私の育児も率先して手伝ってくれています。朝は明け方3時半に起きて一緒に家事をしています。もう80近いのに、こんなにパワフルでカッコいい母はどこにもいません。

喧嘩もしてしまうけれど、私にとっていなくてはならない大事な大事な存在。友達でもあり、戦友でもあり、偉大な母です。彼女のもとに生まれたことに感謝でしかないです。

お母さんありがとう。あなたを誇りに思っています。